

米づくり情報（NO. 2）

令和4年6月23日

伊万里・西松浦地区農業技術者連絡会作物部会

1 気象概況（アメダス観測地：伊万里）

月	半旬	平均気温		最高気温		最低気温		降水量		日照時間	
		平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 ℃	本年値 ℃	平年値 mm	本年値 mm	平年値 時間	本年値 時間
5月	6	20.1	21.3	25.5	26.8	15.2	15.9	26.1	7.5	36.1	38.0
6月	1	20.6	21.2	25.8	27.0	16.3	16.1	24.3	73.5	27.1	39.3
	2	21.3	20.6	26.1	25.0	17.3	16.5	33.7	21.5	24.1	36.2
	3	21.9	21.0	26.5	23.8	18.2	19.1	48.2	56.5	22.1	7.8
	4	22.4	25.0	26.8	29.4	19.0	21.8	67.9	0.5	19.6	0.0
	5	23.1	—	27.1	—	20.0	—	85.9	—	16.0	—
	6	24.0	—	27.7	—	21.1	—	95.6	—	14.1	—

【5月6半旬～6月4半旬の気象概況】

- ・気温は6月2半旬～3半旬は平年よりやや低く推移し、4半旬以降は3℃ほど高くなった。日照時間は6月3半旬以降、寡少傾向となった。
- ・降水量は平年の約77%と少ない。

2 生育状況（6月22日）

項目 品種(設置場所)	年次	草丈 (cm)	茎数 (本/㎡)	主稈出葉数 (L)	葉色 SPAD	概要
夢しずく 6/1 移植 東山代町脇野	本年値	31.6	208	7.2	40.7	・草丈は、平年よりやや低い ・茎数は、平年よりやや多い ・主稈出葉数は平年より0.3葉多い ・葉色は平年より濃い
	平年値	33.7	193	6.9	39.4	
	平年比	94	107	+0.3	+1.3	

※夢しずくの耕種概要は、稲作情報 No.1 を参照。

3 今後の管理

1) 山間早植え水稻（5月上旬移植）

- ・現在中干しの時期を迎えている。
- ・今後、幼穂形成期を迎え、稲の用水要求度が高い時期となるため落水を避け、湛水状態を保つ。
- ・7月上旬には幼穂形成始期（幼穂長1ミリ）を迎える。幼穂形成始期を迎えた圃場では、次項の表を参考に穂肥を施用する。
- ・梅雨に入り曇天の日が続くことが予想されるため、「いもち病」などの発生に注意する。特にいもち病常発地では発生状況を確認し、病斑が確認された場合は速やかに防除を実施する。

表 夢しずく穂肥診断基準

幼穂形成始期の 草丈(cm)	葉 色		施 用 時 期		穂肥施用量 (kg／10a)	
	群 落	SPAD-502	出穂前日数	幼 穂 長	窒素成分量	BB602
	3.0以下	34以下	22～20日前	1 mm	3.0	18 kg
73cm以下	3.0～3.5	38以下	20～18日前	2 mm	3.0	18 kg
	3.5～3.8 3.8以上	38～39 40以上	15～14日前 晩限は止葉抽出終了まで	10～15mm	1.5～2.0 1.0以下	10～12kg 6 kg
73～79cm	3.0～3.5	34以下	20～18日前	2 mm	1.5～2.0	10～12kg
	3.5～3.8	38～39	15～14日前	10～15mm	1.0	6 kg
	3.8以上	40以上	施 用 し な い			
80cm以上	原 則 と し て 施 用 し な い					

【穂肥診断の方法】

- ①幼穂形成始期頃の草丈を測る。 ②葉色（群落・SPAD 値）を測る。
- ③上記①②の測定値を診断指標に当てはめ、施用量を確認する。
- ④施用量を確認したら、基準の施用時期に穂肥を施用できるよう準備する。
- ⑤穂肥は、湛水状態で施用し、最低4日間は止水し、落水しない。

2) 普通期水稻「夢しずく」

- ・分げつ期を迎えている。水管理は浅水管理とし、分げつの発生促進に努める。
- ・ガス対策として移植後15日、25日頃は夜干しなどを行い、根の活力を高める。
(ただし、用水確保が難しい地域では落水せず湛水状態を保つようにする。)
- ・**有効茎（1株当たり20本程度）が確保できた圃場から順次中干しに移行する。**
- ・中干しは約1週間、土壌表面に軽い亀裂が入り、足跡がわずかにつく程度とし強い中干しは避ける。中干し後は間断灌水を行う。なお、強い中干しとなった圃場（土壌が白乾し、手が入るほどの亀裂がある）では、一端通水し、ならしをしてから間断灌水に移行する。
- ・移植後に湛水状態が保てず、除草剤処理後の水管理が徹底できなかった圃場では、ヒエ、コナギやホタルイ等の雑草の発生が散見される。速やかに、中後期除草剤による防除を徹底する。

3) 普通期水稻「たんぼの夢」、「ヒノヒカリ」等

- ・除草剤処理後1週間経過した圃場は、浅水管理に移行し茎数確保に努める。
- ・スクミリンゴガイが多い圃場は、速やかに浅水管理とし、スクミノン等での薬剤防除を徹底する（移植直後と移植後1週間後の2回散布で効果が高い）。

※除草剤は、散布後3日経過すれば有効成分が土壌に吸着される。除草剤の処理層が破壊されないよう水尻を止水して湛水状態を保ち、自然落水によって田面が見えてきても1週間は入水しない。ただし、除草剤散布後24時間以内に、**大雨等によりオーバーフローした場合**、1週間後の雑草発生状態を確認し除草剤効果が期待できない場合は、中後期剤等による防除を行う。

4) 共通

(いもち病)

- ・6月15日までのBLASTAM情報（気象条件に基づいて葉いもちの発生を予測するシステム）によると、伊万里では感染好適条件は観測されていない。ただし、今後も圃場の発生状況に注意し、進展型病斑が確認された圃場では、オリブライト粒剤等で速やかに防除を行う。
- ・圃場内に放置されている補植苗は「いもち病」の温床になるためすみやかに除去する。



いもち病進展型病斑

(ウンカ類)

ウンカ類については、6月4日に嬉野市のライトトラップでセジロウンカ1頭が捕獲されている。今後の飛来状況や圃場条件（移植時期や品種、圃場の場所等）によってウンカ類の発生量は異なるため、注意深く圃場を観察し、発生が多くみられる場合は速やかに防除を行う。

ウンカ類幼虫の見分け方について

	若齢幼虫の体色	中～老齢幼虫の体色	水面での後脚の出し方
セジロウンカ	白っぽい	灰白の斑紋	 : 真横
トビロウンカ	白っぽい	薄茶か茶褐色	 : 真横～やや斜め後ろ
ヒメトビウンカ	黄褐色	淡黄色か薄茶か茶褐色 (体側の色が濃い場合あり)	 : 斜め後ろ

(中干し)

○中干しの開始時期の目安

- ・有効茎（1株当たり20本程度の分けつ）が確保でき、株が開張して草丈がおおむね35～50cmとなった頃から開始する。

○中干しの期間と程度

- ・中干し実施期間は、5～7日とする。
- ・中干しの程度は、軽く足跡がつき、小さなヒビが入る程度とする（歩いて足跡がつくが、抵抗なく歩ける硬さが理想）。

※土壌が白乾し、手のひらが縦に入るようなヒビができる強い中干しは、断根を伴い稲のストレスとなるので避ける。ただし、過繁茂となっており、倒伏が懸念される場合は強めの中干しを行う。

※中干し終了後は、急激に湛水状態にすると、酸素不足となり根腐れする場合がありますので2～3回走り水をしてから湛水する。

○中干しの効果

(1) 土中への酸素供給による還元状態の解消

湛水状態が続くと酸素不足となり、土中が還元状態となる。還元状態が続くと、有機酸等の有害物質が発生し、根の活力が低下する。このため、落水し土中に酸素を供給することで還元状態を解消し、有害物質の発生を抑え根の健全化を図る。

(2) 窒素制限による稲体の生育調整

籾数過多による登熟不良や下位節間の伸長による倒伏を防止できる。また、稲体の窒素制限により無効分げつを抑制し、1 茎あたりの充実を図る。

(3) 土壌の硬化

土壌を固めることで、稲株支持力向上により倒伏軽減が期待される。また、地耐力を高めコンバイン収穫の作業性を向上させる。



中干し程度
土壌表面に軽い亀裂がはいる



間断灌水

水尻をとめて自然落水で田面の水がなくなり足跡の底に水がたまる状態を見られたら、入水する

令和4年産水稻生育期間気象グラフ（アメダス：伊万里）

西松浦農業振興センター

